



第78回 九州・沖縄生殖医学会

学術集会長

銘苅 桂子

琉球大学病院 周産母子センター 教授

● 第78回 九州・沖縄生殖医学会 ●

日 時：2022年4月3日(日) 8:45～16:50

会 場：エルガーラホールおよび Web 会場
福岡市中央区天神 1-4-2

形 式：ハイブリッド形式

学術集会長 銘苅 桂子

琉球大学病院 周産母子センター 教授

〒903-0215 沖縄県西原町上原 207 番地

TEL：098-895-1177

FAX：098-895-1426

学術集会長挨拶

第78回九州・沖縄生殖医学会の開催にあたって

琉球大学病院 周産母子センター 教授

銘苅 桂子



九州・沖縄生殖医学会会員の皆様には、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

この度、伝統ある第78回九州・沖縄生殖医学会を琉球大学産婦人科が担当させていただきますこと、大変光栄に存じますとともに、心より感謝申し上げます。

2019年12月に確認された新型コロナウイルス感染症は世界を席巻し、生殖医療の現場にも多大な影響を与えました。新型コロナウイルス感染症が何者かがわからなかった当初、不妊治療は不要不急として控えられた時期もありました。また、2020年5～7月の出生届は前年の11%減、2021年の出生数は80万を切る可能性も指摘されています。そんな中現場では、不妊治療と院内感染対策を両立させるための様々な対策をとりながら、患者さんの「子どもを持ちたい」という切実な思いに応えられてきたことと思います。

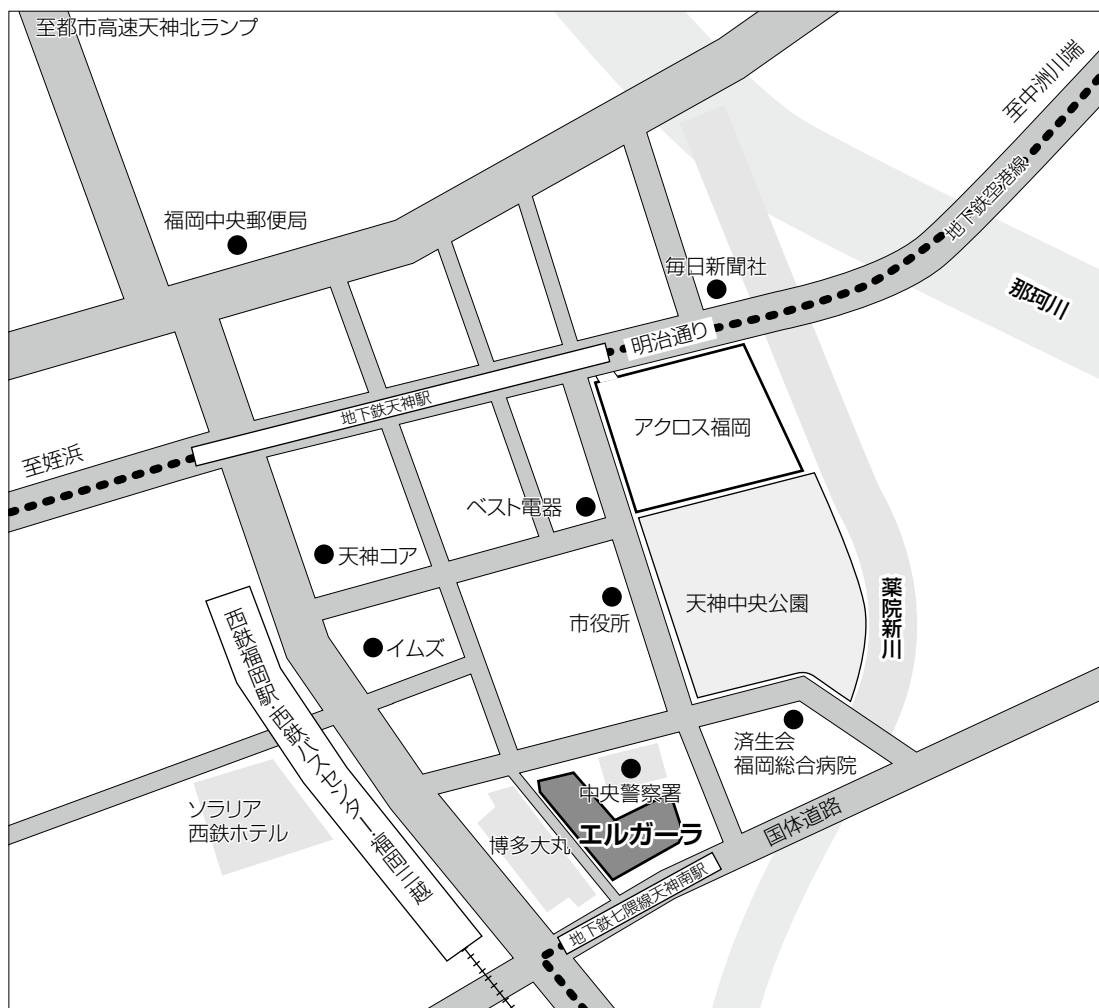
2020年12月には生殖補助医療法が成立し、第三者からの提供卵子や精子をもちいて産まれる子の親子関係が定義されました。しかしながら出自を知る権利や代理懐胎を巡る問題等が残されています。また、日本産科婦人科学会において、PGT-A/SR 臨床研究の中間報告と公開シンポジウムが開催され、様々な立場の人から多くの意見が寄せられ、関心の高さが伺えました。そしてついに、2022年4月からは不妊治療が保険適応されることになります。短期間におけるこれらの変動は、生殖補助医療がこの国の少子化対策を食い止めるために大きく期待されていることを表していると思います。同時に我々生殖医療を担うものには、知識と技術の追求のみならず、高い倫理観が強く要請されていると思います。

2022年1月から新型コロナウイルス感染症の第6波が到来し、本学術集会も急遽ハイブリッド開催とさせていただきますことになりました。モーニングセミナーは、「保険診療化の観点から ART の卵巣刺激について考える」と題して、空の森 KYUSHU の中島 章先生にご講演いただきます。さらに、教育講演では、東京大学産婦人科の甲賀かをり先生をお迎えし、「子宮内膜症合併不妊の取り扱いを考える」と題してご講演いただく予定としております。

会の開催にあたりましては、日本生殖医学会九州ブロック会長の植原久司名誉教授、大分大学医学部産婦人科の河野康志先生、並びに富士製薬工業(株)、フェリング・ファーマ株式会社様のご助力に心より感謝申し上げます。

九州・生殖医学会としては初めてのハイブリッド開催ではありますが、久しぶりの対面による交流ができることを、そしてオンライン上で安心・安全なディスカッションができることを心より楽しみにしております。感染対策を万全とし、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

交通案内

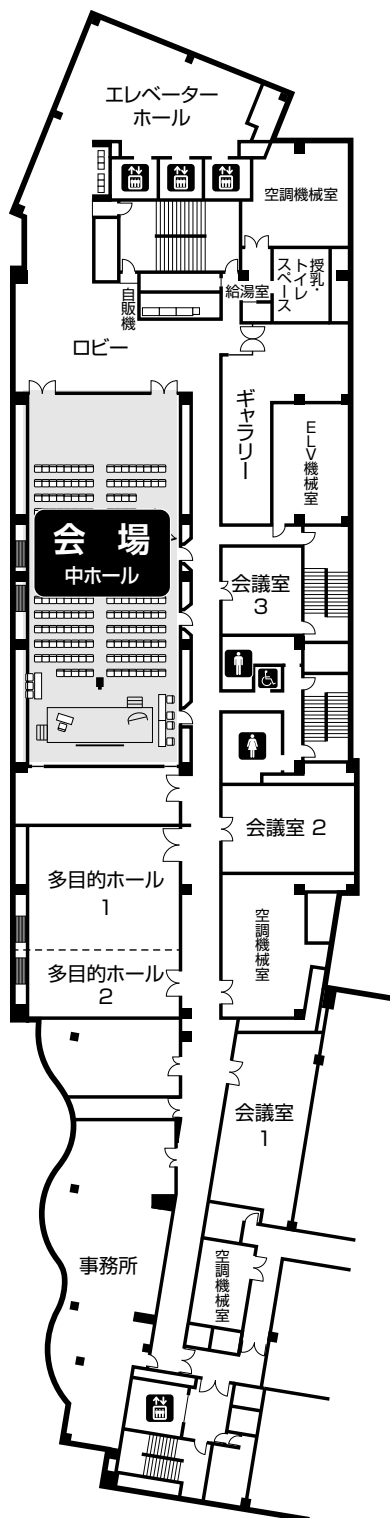


- | | | | |
|---------------|------|----------|----------|
| ●地下鉄空港線天神駅より | 徒歩5分 | ●JR博多駅より | タクシー約10分 |
| ●地下鉄七隈線天神南駅より | 徒歩1分 | ●福岡空港より | タクシー約20分 |
| ●西鉄福岡(天神)駅より | 徒歩2分 | | |
| ●天神バスセンターより | 徒歩3分 | | |

会場案内

エルガーラホール

7F



参加される方へ

本会は、新型コロナ感染拡大を鑑み、現地開催に加えて Web から参加できるハイブリッド開催となります。

参加される方はできるだけ事前の参加登録をお願いします。参加登録をされた方は当日は現地でも Web でも自由にご参加できます。尚、当日現地での参加受付もできます。

■事前参加登録期間

2022年2月24日(木)～4月3日(日)正午

※当日もオンライン登録ができます

■参加費

参加区分	参加登録費
会 員	5,000 円
非 会 員	5,000 円
初期研修医、院生、学生	無 料(当日現地のみ)

※初期研修医、院生、学生の方は無料です。参加は当日現地会場でのみ受付ます。在籍証明書を受付にてご提示ください。

- ・仮参加登録が完了しますと「仮参加登録メール」が送信されます。メールに記載してあるカード決済の URL をクリックしてお支払いを完了させてください。
- ・お支払い方法はカード決済のみとなります。
(VISA、マスターカード、アメリカンエクスプレスまたは Apple Pay、Google Pay)
- ・カード決済完了時に届くメールに参加費領収書の URL が記載されています。ダウンロードしてご利用ください。
- ・理由の如何にかかわらず、参加登録後の返金には応じられませんので、ご了承ください。
- ・参加登録を完了された方全員に Web 会場ログインの ID、およびパスワードをメールでお知らせします。

※学会会期の直前または当日に参加登録をされた方には、カード決済完了メールにてご連絡します。

■抄録誌の販売について

本会のプログラム抄録誌は九州・沖縄生殖医学会会員の方には予め郵送いたします。非会員の方などで購入を希望される方には現地にて販売いたします。Web からの購入はできません。

※非会員で WEB 参加の方で冊子体を必要な場合は、事務局(大分大学)までご連絡ください。

抄録誌 現地販売 500円

参加される方への単位取得について

■現地参加の方へ

日本産科婦人科学会会員の方は会場の単位登録受付にて「e 医学会カード」(UMIN カード)を提示のうえ単位の登録を済ませてください。「e 医学会カード」を必ずご持参ください。

日本産科婦人科学会会員の方は以下の単位が取得できます。

- 1) 学術集会出席「e 医学会カード」: 日本産科婦人科学会専門医研修出席証明 10点
- 2) 学術集会出席「e 医学会カード」: 日本専門医機構 学術集会参加単位 2単位
- 3) [産婦人科領域講習] 受講「e 医学会カード」:
日本専門医機構 [産婦人科領域講習] 1単位

日本専門医機構単位付与講習[産婦人科領域講習]について

日本専門医機構産婦人科領域講習単位(1単位)は、セッション開始の10分前から講習参加受付を開始します。講演開始時間を10分過ぎた場合、聴講は可能ですが、原則として専門医機構単位付与はされませんのでご了承ください。

モーニングセミナー

「保険診療化の観点から ART の卵巣刺激について考える」
中島 章 先生(医療法人 杏月会 空の森 KYUSHU 院長)

ランチョンセミナー

教育講演
「子宮内膜症合併不妊の取り扱いを考える」
甲賀 かをり 先生(東京大学大学院医学系研究科 産婦人科学講座 准教授)

日本産科婦人科医会の単位

日本産婦人科医会の研修参加証につきましては、従来どおりのシールでの発行となります。

日本生殖医学会生殖医療専門医の方々へ

九州・沖縄生殖医学会については、日本生殖医学会生殖医療専門医更新ポイントが10点加算されます。当日受付にて芳名帳をご用意いたしますので、ご記名をお願いいたします。

■ オンラインで視聴される方へ

本会をオンラインで視聴される方も単位申請ができます。

Web 会場へログインされると会場内に単位申請フォームを設けております。
Web 開催時間内に全ての必要項目を入力して〔送信〕を完了してください。

※事務局で視聴ログを確認するため、閲覧終了時は、必ず「ログアウト」より
ご退出をお願いします。ウィンドウの「×」ボタンで画面を閉じると、視聴
ログが取れません。

1. 日本産科婦人科学会会員の方々へ

以下の単位が取得できます。

① 日本産科婦人科学会専門医研修出席証明 10点

② 日本専門医機構 学術集会参加単位 2単位

③ 日本専門医機構〔産婦人科領域講習〕 1単位

①と②は時間内に少なくとも1演題を視聴した方(演題の指定はありません)に
単位が付与されます。

③産婦人科領域講習に関しましては、以下のセッションを最初から最後まで視聴
された方にのみ単位を付与いたします。

モーニングセミナー

「保険診療化の観点から ART の卵巣刺激について考える」

中島 章 先生(医療法人 杏月会 空の森 KYUSHU 院長)

ランチョンセミナー

教育講演

「子宮内膜症合併不妊の取り扱いを考える」

甲賀 かをり 先生(東京大学大学院医学系研究科 産婦人科学講座 准教授)

2. 日本産婦人科医会会員の方々へ

申請フォームから申請された方に研修参加証(シール)を送付いたします。

3. 日本生殖医学会会員の方々へ

生殖医療専門医でご参加(視聴)が確認できた方には生殖医療専門医更新ポイン
ト(10点)が付与されます。※申請時に日本生殖医学会の会員番号と専門医番号
が必要です。

演者の皆様へ

一般演題は現地発表を原則としますが、Zoomでのオンライン発表にも対応いたします。オンライン発表を希望される方は、必ず3月25日(金)までに主催事務局へメールでご連絡ください。

〔連絡先〕 琉球大学大学院医学研究科 女性・生殖医学講座
〒903-0215 沖縄県西原町上原207番地
TEL：098-895-1177 FAX：098-895-1426
E-mail：okisanfu@gmail.com

- ・口演時間はプログラムでご確認ください。
- ・発表時間は7分(発表4分・質疑3分)です。時間厳守をお願いします。

■現地会場での発表

- ・発表は口演発表のみです。受付へデータ(USB)をお持ちください。動画再生がある方、Mac PC ご利用の方はご自身のPCをお持ちください。
- ・PCによってはプロジェクター出力に専用のコネクターが必要になりますので、必ずお持ちください。事務局で用意するのはHDMIに対応する端子のみとなります。
- ・会場スピーカーに音声は流せません。
- ・PC受付の液晶モニターに接続し、映像の出力チェックを行ってください。
- ・スクリーンセーバー、省電力設定は事前に解除をお願いします。電源アダプタは必ずご持参ください。
- ・Power Pointは2019年バージョンを用意しております。これ以前のPower Pointをご利用の方はご自身のPCをお持ちください。尚、発表者ツールはご利用いただけません。

■オンラインでの発表

オンライン発表はZoomでの発表となります。オンライン発表を希望される方は、3月25日(金)までにテスト上映希望時間もあわせて主催事務局へメールでご連絡ください。

テスト上映時間を設定しておりますので、オンライン発表の方は必ずこの下記のお時間にてご参加ください。

3月30日(水) 10:00～12:00、14:00～16:00

3月31日(木) 10:00～12:00、14:00～16:00

※上記時間内で参加希望時間を事務局メール E-mail：okisanfu@gmail.com へお知らせいただきますようお願いいたします。また、上記時間内でご参加できない場合もご連絡をお願いいたします。

※大会当日にご使用になる PC をご用意の上でテストをお願いします。

- 当日発表する Zoom セッションの URL は主催事務局から演者の方にお知らせします。発表時間の10分前までにログインし待機してください。
- 通信環境は有線 LAN を強く推奨いたします。
- 大会当日は、発表後にライブで質疑応答(チャット、手を挙げて質問)がございいますので、忘れずにご参加ください。

■ 座長の先生方へ

座長の先生方は当日現地会場にご来場いただき担当セッションの進行をお願いします。Web 視聴者からの質疑を「チャットまたは手を挙げる」で受ける予定ですので、ご対応のほどよろしくお願いいたします。

セッション進行につきましては、座長に一任いたします。時間厳守で円滑な運営にご協力をお願いいたします。

■ 視聴者の皆様へ

開催形式：現地開催＋ライブ配信のハイブリッド開催となります。

※後日のオンデマンド配信は行いませんのでご了承下さい。

参加される方はできるだけ事前の参加登録をお願いします。

配信時間：学会プログラム時刻と同時(ライブ配信のみとなっております)

視聴 URL：参加登録完了後にメールにて個別にお知らせ致します

質問の際はチャットもしくは「手を挙げる」を押し発言をお願いします。

■ 利益相反開示について

臨床研究に関するすべての発表において利益相反状態の有無にかかわらず、開示する必要があります。発表ではひな形(ppt)に準じたスライドを呈した上で利益相反状態の有無を述べてください。開示する利益相反状態は抄録提出1年前から発表時までのものとします。

また、利益相反状態の開示に関しては、すべて日本生殖医学会の「利益相反に関する指針(2011年9月2日施行)」に拠るものとします。

スライドのひな形は本会 HP の演題募集ページからダウンロードできます。

第78回九州・沖縄生殖医学会 プログラム

日 時：2022年4月3日(日) 8時45分～

場 所：エルガーラホール

評議員会・総会 8:45～9:00

開 会 9:00～

学術集会長 銘苅 桂子(琉球大学病院 周産母子センター)

モーニングセミナー 9:10～10:10

座長：詠田 由美(アイブイエフ詠田クリニック)

保険診療化の観点からARTの卵巣刺激について考える

中島 章 医療法人 杏月会 空の森 KYUSHU 院長

共催：フェリング・ファーマ株式会社

第1群 [卵巣刺激・採卵] 10:10～10:38

座長：大石 博子(九州大学 産婦人科)

O-01 当科における遺伝子組換えヒト絨毛性ゴナドトロピン使用の成績

○大石 杉子、銘苅 桂子、宜保 敬也、長田 千夏、仲村 理恵、宮城 真帆、
赤嶺 こずえ、青木 陽一
琉球大学病院 産婦人科

O-02 重症 PCOS に対する排卵誘発法における新しい試み

○田中 温¹⁾、中島 大輔¹⁾³⁾、柳原 康穂¹⁾²⁾、永吉 基¹⁾、田中 威づみ¹⁾、
板倉 敦夫²⁾
1) セントマザー産婦人科医院、2) 順天堂大学 医学部 産婦人科学講座、
3) 産業医科大学 産婦人科

O-03 当院での調節卵巣刺激における PPOS 法の有用性の検討

○岩川 富貴子、桑鶴 ゆかり、徳留 茉里、黒木 裕子、燃脇 晴恵、
溝部 大和、田平 満里奈、田平 達則、竹内 美穂、竹内 一浩
竹内レディースクリニック附設高度生殖医療センター

O-04 ART 治療におけるトリガー時間と卵子成熟度の検討

○伊東 裕子、甲斐 由布子、津野 晃寿、大津 英子、後藤 裕子、
宇津宮 隆史
セント・ルカ産婦人科

第2群 [男性不妊1] 10:38～11:06

座長：古賀 文敏(医療法人 古賀文敏ウィメンズクリニック)

O-05 環状 Y 染色体による高度乏精子症と考えられる男性不妊症の一例

○三好 潤也¹⁾、小山 伸夫¹⁾、木下 和雄¹⁾、増田 裕²⁾
1) 医療法人聖命愛会 ART 女性クリニック、
2) 社会医療法人信愛会 暇生会脳神経外科病院 泌尿器科

O-06 円形精子細胞の体外培養条件の検討

○川上 真菜¹⁾、竹本 洋一¹⁾、江島 和秀¹⁾、田中 威づみ¹⁾、柳原 康穂¹⁾²⁾、
永吉 基¹⁾、田中 温¹⁾、渡邊 誠二³⁾、島田 昌之⁴⁾、川合 智子⁴⁾、板倉 敦夫²⁾
1) セントマザー産婦人科医院、2) 順天堂大学 医学部 産婦人科学講座、
3) 弘前大学大学院 医学研究科 生体構造医科学講座、
4) 広島大学 大学院統合生命科学研究科 生物生産学部

O-07 TESE および MESA により回収された精子の凍結前および凍結融解後の精子生存率の検討

○成吉 昌一、庄 武彦
MR しょうクリニック

O-08 当施設における精巣精子採取術の治療成績

○横山 裕
医療法人 横山裕クリニック

第3群 [男性不妊2] 11:06～11:34

座長：北島 道夫（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 産婦人科）

O-09 当院における男性不妊への対応 精液検査から治療まで

○上村 哲¹⁾、中村 庸子¹⁾、上村 悟¹⁾、若山 明彦¹⁾、仲本 哲¹⁾、花城 可信¹⁾、
山内 昌紀¹⁾、新垣 義孝²⁾

1)うえむら病院 リプロダクティブセンター、2)県立中部病院

O-10 男性のブルーファセルアライブ服用による不妊治療への関与について

○神田 晶子、宮田 美紀、大津 英子、熊迫 陽子、甲斐 由布子、津野 晃寿、
伊東 裕子、宇津宮 隆史

セント・ルカ産婦人科

O-11 対側の精路閉塞を合併した、片側の多発性精巣内微小結石を認めた 男性不妊症の1例

○庄 武彦、成吉 昌一

MR しょうクリニック

O-12 TEX14部分ペプチドの抗腫瘍活性

○Sultana Tasrin¹⁾、岩森 督子¹⁾²⁾、岩森 巨樹¹⁾

1)九州大学 大学院農学研究院 動物学分野、2)日本学術振興会

ランチョンセミナー 12:00～13:00

座長：銘苅 桂子（琉球大学病院 周産母子センター）

教育講演

子宮内膜症合併不妊の取り扱いを考える

甲賀 かをり 東京大学大学院医学系研究科 産婦人科学講座 准教授

共催：富士製薬工業株式会社

第4群 [胚培養・凍結・胚評価] 13:00～13:35

座長：河野 康志（大分大学医学部 産科婦人科）

O-13 Gardner 分類による単一胚盤胞移植の成績と iDAScore の有用性の検討

○佐多 良章、遊木 靖人、真壁 潤子、岩瀬 あい、森下 眞依子、奥村 理紗、大城 美喜、平井 佐和子、岡村 佳則、岩政 仁
ソフィアレディースクリニック水道町

O-14 胚盤胞凍結処理時の収縮様式および胚の直径が その後の臨床成績に及ぼす影響

○長尾 洋三、水本 茂利、田中 啓子、戸野本 知子、吉岡 尚美、大塚 未砂子、小川 尚子、古川 雄一、藤田 智之、蔵本 武志
蔵本ウイメンズクリニック

O-15 凍結融解後に変性割球を認めた分割期胚の妊娠状況に関する検討

○遊木 靖人、岩瀬 あい、佐多 良章、真壁 潤子、森下 眞依子、奥村 理紗、大城 美喜、平井 佐和子、岡村 佳則、岩政 仁
ソフィアレディースクリニック水道町

O-16 胚齢を考慮した胚盤胞選択基準の検討；Day4 発生ステージの影響

○水本 茂利、長尾 洋三、田中 啓子、仲宗根 巧真、渡辺 瞳、戸野本 知子、奥田 紗矢香、後藤 美緒、伊賀 淑穂、蔵本 武志
蔵本ウイメンズクリニック

O-17 当科における胚盤胞評価と単一良好胚盤胞移植の臨床成績の検討

○原田 枝美、山下 由貴、岡本 真実子、青柳 陽子、麻生 咲季、河野 康志
大分大学 医学部 産科婦人科

第5群 [胚移植・着床] 13:35～14:03

座長：本田 律夫（熊本市民病院）

O-18 当院での難治性不妊に対する 多血小板血漿 (platelet-rich plasma：PRP) を用いた不妊治療の経験

○本庄 考、権藤 咲紀、金原 恵利子、谷端 李穂、窪山 貴恵、坂村 遥香、北岡 杏菜、泊 博幸、詠田 由美
アイブイエフ詠田クリニック

O-19 回復培養に GM-CSF 含有培地を用いた凍結融解胚盤胞移植の回復
および妊娠成績

○山本 新吾、岩田 叶絵、松尾 則子、宮田 知子、山本 奈理、井上 善仁
井上善レディースクリニック

O-20 流産歴のある分割期凍結融解胚移植における GM-CSF 含有培養液の
有用性の検討

○谷端 李穂、泊 博幸、國武 克子、内村 慶子、下瀬 瞳、齋藤 研祐、
權藤 咲紀、加藤 真由、本庄 考、詠田 由美
医療法人 アイブイエフ詠田クリニック

O-21 胚盤胞凍結融解胚移植における GM-CSF 含有培養液による
子宮内膜刺激の有用性の検討

○窪山 貴恵、泊 博幸、國武 克子、内村 慶子、下瀬 瞳、齋藤 研祐、
權藤 咲紀、加藤 真由、本庄 考、詠田 由美
医療法人 アイブイエフ詠田クリニック

第6群 [染色体診断] 14:08～14:50

座長：伊東 裕子(セント・ルカ産婦人科)

O-22 当院における着床前遺伝子診断 (PGT-A) の臨床成績
—PGT-A 非実施例との比較—

○白石 真璃菜、中村 千夏、松下 ゆうき、上田 真理奈、池田 早希、
江寄 彩乃、早崎 理加、福本 優子、三好 潤也、小山 伸夫
医療法人聖命愛会 ART 女性クリニック

O-23 当院における PGT-A 判定不能例の解析

○早崎 理加、中村 千夏、松下 ゆうき、上田 真理奈、池田 早希、
江寄 彩乃、福本 優子、白石 真璃菜、三好 潤也、小山 伸夫
医療法人聖命愛会 ART 女性クリニック

O-24 培養上清中に含まれる遊離 DNA を用いた PGT-A の試み
—判定基準と培養日数—

○大津 英子¹⁾、神田 晶子¹⁾、小林 あやね¹⁾、熊迫 陽子¹⁾、甲斐 由布子¹⁾、
津野 晃寿¹⁾、伊東 裕子¹⁾、柳原 玲²⁾、倉橋 浩樹³⁾、宇津宮 隆史¹⁾
1) セント・ルカ産婦人科、2) 株式会社 OVUS、
3) 藤田医科大学 総合医科学研究所 分子遺伝学研究部門

O-25 使用済み培養液を用いた胚染色体異数性解析の試み

○千葉 摩樹子、永浦 ひとみ、橋口 朝夏、陣内 彩子、田中 萌絵、
坂口 めぐみ、古恵良 桂子、結城 裕之
医療法人中央レディスクリニック

O-26 当院における異常受精胚由来の染色体解析結果の検討

○中島 大輔¹⁾³⁾、米本 昌平¹⁾、竹本 洋一¹⁾、柳原 康穂¹⁾²⁾、永吉 基¹⁾、
田中 威づみ¹⁾、田中 温¹⁾、板倉 敦夫²⁾
1) セントマザー産婦人科医院、2) 順天堂大学 医学部 産婦人科学講座、
3) 産業医科大学 産婦人科

O-27 Biopsy 術者の違いが正倍数性胚獲得率に及ぼす影響

○徳留 茉里、溝部 大和、桑鶴 ゆかり、黒木 裕子、福元 由美子、
燃脇 晴恵、岩川 富貴子、竹内 一浩
医療法人仁知会 竹内レディースクリニック 附設高度生殖医療センター

第7群 [妊孕性温存] 14:50～15:25

座長：城田 京子(相良病院)

O-28 子宮頸癌に対する子宮頸部摘出術後症例の不妊治療の成績

○藤田 智之、吉岡 尚美、小川 尚子、古川 雄一、大塚 未砂子、水本 茂利、
久保島 美佳、村上 貴美子、蔵本 武志
蔵本ウイメンズクリニック

O-29 子宮体癌・子宮内膜異型増殖症に対する妊孕性温存療法の転帰に関する検討

○梶村 慈、松本 加奈子、原田 亜由美、北島 百合子、北島 道夫、
三浦 清徳
長崎大学病院 産婦人科

O-30 当院における悪性腫瘍患者の妊孕性温存について

○權藤 咲紀、泊 博幸、谷端 李穂、窪山 貴恵、坂村 遥香、北岡 杏葉、
金原 恵利子、本庄 考、詠田 由美
アイブイエフ詠田クリニック

O-31 当院で医学的適応による未受精卵子凍結をおこなった24症例の検討

○小川 尚子、吉岡 尚美、藤田 智之、古川 雄一、大塚 未砂子、水本 茂利、
村上 貴美子、蔵本 武志
蔵本ウイメンズクリニック

O-32 妊孕制温存目的の精子凍結の検討

○甲斐 博宜¹⁾、甲斐 由布子²⁾、津野 晃寿²⁾、伊藤 裕子²⁾、宇津宮 隆史²⁾

1) 別府湾腎泌尿器病院、2) セント・ルカ産婦人科

第8群 [手術・先天異常] 15:30～15:58

座長：赤嶺 こずえ（琉球大学病院 産婦人科）

O-33 帝王切開癒痕部症候群に対する鏡視下手術と妊娠転帰

○宮城 真帆、銘荊 桂子、仲村 理恵、大石 杉子、赤嶺 こずえ、青木 陽一

琉球大学病院 産婦人科

O-34 子宮瘻孔閉鎖術後に凍結融解胚移植により妊娠した 2絨毛膜2羊膜双胎の1例

○大橋 和明、平木 宏一、河野 通晴、新谷 灯、平木 裕子、藤下 晃

済生会長崎病院 産婦人科

O-35 反復流産既往をもつ中隔子宮症例に対する当院の手術治療成績

○神山 茂¹⁾、高山 尚子¹⁾、早田 季美恵¹⁾、山城 貴恵¹⁾、中島 章²⁾、
寺田 陽子¹⁾、佐久本 哲郎¹⁾、東 政弘¹⁾、徳永 義光¹⁾

1) 医療法人 杏月会 空の森クリニック、2) 空の森 KYUSYU

O-36 Undescended fallopian tube and ovary を有する不妊3症例の経験

○中島 章¹⁾、徳永 義光²⁾、早田 季美恵²⁾、山城 貴恵²⁾、寺田 陽子²⁾、
石垣 敬子²⁾、高山 尚子²⁾、神山 茂²⁾、佐久本 哲郎²⁾、東 政弘²⁾

1) 医療法人 杏月会 空の森 KYUSHU、2) 医療法人 杏月会 空の森クリニック

第9群 [心理・看護・その他] 15:58～16:40

座長：野見山 真理（高木病院）

O-37 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による 不妊治療中の患者の影響について

○甲斐 忍、薬師寺 しおり、後藤 裕子、甲斐 由布子、津野 晃寿、
伊東 裕子、宇津宮 隆史

セント・ルカ産婦人科

O-38 不妊治療の終結を決断し夫婦二人での生活を送られている患者の現在

○松土 留美、薬師寺 しおり、後藤 裕子、甲斐 由布子、津野 晃寿、
伊東 裕子、宇津宮 隆史
セント・ルカ産婦人科

O-39 初診にて来院した患者への不妊治療についての意識調査

○青木 桜、越名 久美、後藤 裕子、甲斐 由布子、津野 晃寿、伊東 裕子、
宇津宮 隆史
セント・ルカ産婦人科

**O-40 当院における胚培養士教育の取り組み
～顕微授精（ICSI）の受精率向上・維持の工夫～**

○桑鶴 ゆかり、徳留 茉里、黒木 裕子、福元 由美子、燃脇 晴恵、
溝部 大和、岩川 富貴子、竹内 一浩
医療法人仁知会 竹内レディースクリニック 附設高度生殖医療センター

O-41 卵子提供による非配偶者間体外受精を実施し出産した一症例

○小山 伸夫、中村 千夏、松下 ゆうき、上田 真理奈、池田 早希、
江畠 彩乃、早崎 理加、福本 優子、木下 和雄、三好 潤也
医療法人聖命愛会 ART 女性クリニック

O-42 多嚢胞性卵巣症候群における潜在性甲状腺機能低下症例の臨床成績の検討

○永吉 基¹⁾、中島 大輔¹⁾³⁾、柳原 康穂¹⁾²⁾、田中 威づみ¹⁾、田中 温¹⁾、
板倉 敦夫²⁾

1) セントマザー産婦人科医院、2) 順天堂大学 医学部 産婦人科学講座、
3) 産業医科大学 産婦人科

閉 会 16:40～

日本生殖医学会九州・沖縄ブロック長挨拶

檜原 久司（大分大学医学部産科婦人科 名誉教授）

次期学術集会長挨拶

学術集会長挨拶

銘苅 桂子（琉球大学病院 周産母子センター）

一般演題

O-01 当科における 遺伝子組換えヒト絨毛性 ゴナドトロピン使用の成績

○大石 杉子、銘苅 桂子、宜保 敬也、長田 千夏、
仲村 理恵、宮城 真帆、赤嶺 こずえ、
青木 陽一
琉球大学病院 産婦人科

【目的】体外受精施行症例における遺伝子組換えヒト絨毛性ゴナドトロピン（以下、hCG）の使用成績を明らかにすること。

【方法】当科にて2020年7月から2021年5月までに体外受精の卵成熟目的として遺伝子組換え hCG（オビドレル[®]皮下注シリンジ）を使用した145例（r-hCG 群）と2019年1月から2021年3月までに尿由来 hCG を使用した146例（u-hCG 群）を対象に、診療録を後方視的に検討した。当院では2019年7月以降は原則として r-hCG を使用し、それ以前の症例や患者自身が希望した症例には u-hCG を使用している。

【成績】r-hCG 群と u-hCG 群の間で年齢（39.2 vs 40.0歳； $p=0.14$ ）、FSH 基礎値（12.7 vs 11.0 mIU/mL； $p=0.66$ ）、抗ミュラー管ホルモン値（1.35 vs 1.55ng/mL； $p=0.55$ ）、調節卵巣刺激を施行した割合（46.9 vs 41.8%； $p=0.41$ ）、総 HMG 投与量（1,103 vs 1,010 IU； $p=0.50$ ）、採卵前エストロゲン値（1,303.5 vs 1,197.8 pg/mL； $p=0.82$ ）、多嚢胞性卵巣症候群の割合（4.1 vs 3.4%； $p=0.77$ ）の背景に有意差はなかった。両群における採卵数（5.3 vs 4.8個； $p=0.63$ ）、卵成熟率（85.4 vs 83.7%； $p=0.79$ ）、受精率（55.2 vs 58.3%； $p=0.56$ ）、卵変性率（4.5 vs 6.5%； $p=0.28$ ）、良好胚盤胞数（0.75 vs 0.73個； $p=0.70$ ）、凍結卵数（1.4 vs 1.3個； $p=0.85$ ）に有意差はみられず、採卵キャンセル率（4.8 vs 6.2%； $p=0.80$ ）、卵巣過剰刺激症候群の割合（2.8 vs 2.7%； $p=1.0$ ）も同等であった。

【結論】体外受精の卵成熟目的の使用とした遺伝子組換え hCG は尿由来 hCG と同等の成績である。

O-02 重症 PCOS に対する 排卵誘発法における新しい試み

○田中 温¹⁾、中島 大輔¹⁾³⁾、柳原 康穂¹⁾²⁾、
永吉 基¹⁾、田中 威づみ¹⁾、板倉 敦夫²⁾
1) セントマザー産婦人科医院、
2) 順天堂大学 医学部 産婦人科学講座、
3) 産業医科大学 産婦人科

【目的】重症 PCOS に対する排卵誘発法において、卵子の質を下げず OHSS を抑える新しい試みを施行し良好な結果を得たので報告する。

【方法】アロマターゼ阻害剤 2.5mg または 5mg を月経3日目よりトリガー時まで投与し、HMG150単位を同時スタート又は月経5日目よりスタートする4通りの方法で検討した。主席卵胞が18mm以上になった時点より、GnRH アンタゴニスト 1A を開始し、トリガーのタイミングは主席卵胞が22～24mm で HCG5,000単位を投与した。

【結果】

A：HMG150単位〔同時スタート-1、月経5日目から-2〕、B：アロマターゼ阻害剤〔2.5mg-1、5.0mg-2〕として各群における、平均採卵数、平均凍結胚数、凍結胚移植時の臨床妊娠率、流産率を算出した。〔A-1、B-1： $n=22$ 、 15.91 ± 7.17 、 4.14 ± 3.17 、43.5%（10/23）、10.0%（1/10）〕、〔A-1、B-2： $n=6$ 、 22.67 ± 7.63 、 5.67 ± 3.04 、60.0%（3/5）、0.0%（0/3）〕、〔A-2、B-1： $n=25$ 、 14.40 ± 6.80 、 2.40 ± 2.04 、54.5%（12/22）、16.7%（2/12）〕、〔A-2、B-2： $n=10$ 、 20.10 ± 7.19 、 4.80 ± 4.56 、57.1%（4/7）、75.0%（3/4）〕という結果が得られた。全体の平均凍結胚数は3.7個であった。

【結論】本法は胚の質を下げずに高い胚発生率を保ちながら、発育卵胞数を減少させ OHSS を抑えることができるという点で、従来の刺激法に比べ優れており、重症 PCOS に対する有用な排卵誘発法であることが期待できる。今後臨床症例を増やし更に検討を深めていきたい。

第78回九州・沖縄生殖医学会

学術集会長：銘苅 桂子

発行者：琉球大学大学院医学研究科 女性・生殖医学講座
〒903-0215 沖縄県西原町上原207番地
TEL：098-895-1177 FAX：098-895-1426

事務局：大分大学医学部産科婦人科学教室
〒879-5593 大分県由布市狭間町医大ヶ丘1-1
TEL：097-586-5922 FAX：097-586-6687

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025